

総合科学技術・イノベーション会議 第152回評価専門調査会

議事概要

日時：令和6年9月18日（水）14：00～16：30

場所：オンライン

出席者：上山会長、梶原議員、篠原議員、菅議員、波多野議員、伊藤議員、
光石議員、川原委員、染谷委員、田中委員、長谷山委員、林委員、
渡邊委員

欠席者：佐藤議員、江崎委員、大隅委員、大内委員

事務局：徳増審議官、藤吉審議官、石川参事官、白井参事官

- 議事：1. 令和7年度事業に係る国家的に重要な研究開発について
2. 福島国際研究教育機構の事業年度における研究開発等業務の実績評価等の結果に対する復興庁及び法人へのヒアリングについて
3. 福島国際研究教育機構の事業年度における研究開発等業務の実績評価等の結果の見込評価等の結果に対する総合科学技術・イノベーション会議の意見（案）について
4. 特定国立研究開発法人（理化学研究所及び産業技術総合研究所）の見込評価等の結果に対する所管省及び法人へのヒアリングについて

（配付資料）

資料1 令和7年度事業に係る国家的に重要な研究開発について

資料2 評価の進め方

資料3 福島国際研究教育機構における各事業年度に係る研究開発等業務の実績等に関する評価等及び次期中期目標の内容に対する意見・指摘事項の考え方

資料4 評価専門調査会における関係省庁及び法人へのヒアリングポイント

- 資料 5 特定国立研究開発法人の見込評価等及び次期中長期目標の内容に対する意見・指摘事項の考え方
- 資料 6 福島国際研究教育機構の業務実績評価に係る体制について（復興庁提出資料）
- 資料 7 福島国際研究教育機構（F-R E I）の研究開発等について（福島国際研究教育機構提出資料）
- 資料 8 福島国際研究教育機構の評価実施方針（復興庁提出資料）
- 資料 9 令和 5 年度研究開発等業務の実績に係る自己評価報告書（福島国際研究教育機構提出資料）
- 資料 10 主務大臣評価素案（復興庁提出資料）
- 資料 11 福島国際研究教育機構の事業年度における研究開発等業務の実績評価等の結果の見込評価等の結果に対する総合科学技術・イノベーション会議の意見（案）
- 資料 12 特定国立研究開発法人理化学研究所第 4 期中長期目標期間の終了時に見込まれる業務の実績に関する評価・中長期目標期間終了時の業務及び見直し内容について（文部科学省提出資料）
- 資料 13 第 4 期中長期計画の活動と次期計画に向けて（理化学研究所提出資料）
- 資料 14 中長期目標の期間の終了時に見込まれる中長期目標の期間における業務の実績に関する評価の結果について（文部科学大臣）
- 資料 15 特定国立研究開発法人理化学研究所の業務及び組織の全般にわたる検討結果並びに講ずる措置の内容について（文部科学大臣）
- 資料 16 産業技術総合研究所の見込評価等の内容について（経済産業省提出資料）
- 資料 17 国立研究開発法人産業技術総合研究所第 5 期中長期目標期間における取組について（産業技術総合研究所提出資料）
- 資料 18 国立研究開発法人産業技術総合研究所の第 5 期中長期目標期間の終了

時に見込まれる第5期中長期目標期間における業務の実績に関する評価について（経済産業大臣）

資料 19 国立研究開発法人産業技術総合研究所の第5期中長期目標期間の終了時における業務及び組織全般の見直しについて（経済産業大臣）

（参考資料）

参考資料 総合科学技術・イノベーション会議が実施する国家的に重要な研究開発の評価について

議事概要：

【石川参事官】 お時間が少し過ぎておりますけれども、大体先生方おそろいになりましたので、これから第152回の評価専門調査会を始めさせていただきたいと思っております。

開催に先立ちまして本日の出席状況を確認いたします。今現在14名の委員の先生に御出席いただいております、本日欠席は2名と伺っております。今入っておられないですが、江崎先生、長谷山先生、染谷先生、大隅先生は途中から参加される予定と伺っております。以上から、開催要件でございます過半数の出席がございますので、報告いたします。

それでは、進行を上山先生にお願いいたします。

【上山会長】 定刻となりましたので、ただいまから第152回の評価専門調査会を開催いたします。

本日の評価専門調査会では、特殊法人及び国立研究開発法人の評価に関わる議題が含まれております。公表された場合には自由な議論を困難にすることから、当該法人の権利、名誉を損なうおそれもあると考えまして、この議題に関してのみは非公開とさせていただきたいと考えております。

議題ですが、議事次第にお示ししているとおり、1つ目の議題は「令和7年度事業に係る国家的に重要な研究開発について」、2つ目の議題は「福島国際研究教育機構の事業年度における研究開発等業務の実績評価等の結果に対する復興庁及び法人へのヒアリングについて」、3つ目の議題は「福島国

際研究教育機構の事業年度における研究開発等業務の実績評価等の結果の見込評価等の結果に対する総合科学技術・イノベーション会議の意見（案）について」、4つ目は「特定国立研究開発法人（理化学研究所及び産業技術総合研究所）の見込評価等の結果に対する所管省及び法人へのヒアリングについて」となっております。

理化学研究所と産業技術総合研究所につきましては、次回10月の評価専門調査会でCSTIの意見案の取りまとめを行いますので、本日はヒアリングのみを実施いたします。一方、福島国際研究教育機構については、評価スケジュールの関係上、本日ヒアリングを実施した上で、CSTIの意見案の取りまとめを行う必要がございます。時間に限りもある中、大変恐縮ではございますけれども、円滑な会議進行に御協力と御理解をいただければ幸いです。

それでは、事務局から配付資料の確認をお願いします。

【石川参事官】 本日の配付資料ですが、議事次第の2枚目以降のところを表示いただけますでしょうか。事前に委員の先生方に送付させていただいておりますけれども、資料1から資料19までと、参考資料が1部ございます。もしお手元に送付されているフォルダの中で抜けているものがございましたら、事務局まで御連絡いただければと思います。よろしく願いいたします。

【上山会長】 それでは、早速ですが議題（1）に入りたいと思います。「令和7年度事業に係る国家的に重要な研究開発について」、事務局から説明をお願いします。

【石川参事官】 それでは、本日の最初の議題でございますけれども、この評価専門調査会で扱います令和7年度事業に係る国家的に重要な研究開発についてでございます。

今資料1を表示いただいております。内容についてはもう既に委員の皆様御承知かと思いますが、総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）では、平成17年のCSTI決定で国家的に重要な研究開発の評価についてを

定めてございますけれども、そちらに基づいて新たに実施が予定される国費総額が300億円以上の研究開発のうち、科学技術政策上の重要性等に鑑み評価専門調査会において評価すべきと認めたものについて、本調査会で調査検討を行うことにしてございます。

「2. 評価対象案件の選定」でございます。今申し上げたような300億円以上の研究開発に関して評価対象を選ぶに当たって、(1)の対象となる研究開発案件の選定について、第123回の評価専門調査会において決定されてございますけれども、新規研究開発案件の全体像を把握するために、少し広げて、総額約200億円以上または単年度で20億円以上の案件について、各府省に対して調査をさせていただいております。その結果を踏まえて、300億円以上の大規模研究開発案件を選定するという進めさせていただいております。

ただいま申し上げた各府省に対する調査結果が(2)でございます。今般調査した中で、令和7年度の新規案件として要求が上がっているものが表中の黄色の事業になります。文部科学省の案件で、「富岳」の次世代となる新たなフラッグシップシステムの開発・整備、SPRING-8の高度化(SPRING-8-II)、もう一つ、次世代エッジAI半導体・フィジカルインテリジェンスの統合的研究開発が、300億円を上回る見込みの事業としてございます。

もう一つ、経済産業省の事業として、水素利用拡大に向けた共通基盤強化のための研究開発事業、こちらが300億円を上回る事業として登録がございます。

その他、200億円以上、単年度20億円以上で、白の事業ですけれども、4つほど挙がっております。

こうした登録状況を踏まえまして、次のページの3.にありますように、今回の調査を踏まえて、国費総額300億円以上の規模となるのが、今申し上げた4件の開発事業でございます。これら研究開発につきましては、科学技術政策上の重要性等の観点から、この評価専門調査会において評価すべきものと認められるものと思っております。こちら4件を、評価専門調査会の下に設置したワーキングにおいて評価を実施することにしたいと考えてござ

います。

説明は以上でございます。

【上山会長】 ありがとうございます。今の4件を300億円以上として、これ
を対象としたいという事務局案でございます。何か御意見あるいは御質問等
ありましたらお受けいたしますけれども、いかがですか。御意見のある方は
お手を挙げてくださったらいいと思いますけれども、よろしいですか。篠原
委員どうぞ。

【篠原議員】 意見というよりも質問ですけれども、4番目の水素利用拡大に向け
た案件ですが、GI基金との関係はどうなっているのでしょうか。

【石川参事官】 GI基金とは違うものと思っておりますけれども、水素戦略などの
全体の中で今回の新規事業がどういうふうに位置づけられたものかという
ところは、経産省の中でどのように評価が行われて今回要求に至っているか
というところをぜひ、次のワーキンググループの場などでヒアリングを通じて
確認していただければありがたいと思います。

【篠原議員】 分かりました。次回のワーキンググループの説明のときのお願いで
すけれども、3番目の次世代エッジAI半導体・フィジカルインテリジェン
スの資料を拝見したのですけれども、エッジAI半導体とフィジカルインテ
リジェンスとのつながりがこの資料からは読み取れないので、ぜひそこを説
明いただくように事前をお願いしていただけますか。

【石川参事官】 ありがとうございます。事務局として先生の今の御指摘承りま
したので、次回文部科学省から説明いただくときに、今御指摘の点が分かる
ように説明いただくよう事前に依頼したいと思います。

【上山会長】 ほかの委員の方いいがですか。林さん、どうぞ。

【林委員】 対象にすべきという意味ではないのですが、文科省の医学系研究支援プログラム、資料を見ても、研究時間の確保とか研究環境の整備となっていて、なぜ医学系のところだけこれが特出しで出てきているのかが正直よく分からないところがありますので、この評価の対象にする必要はないと思いますが、C S T Iのほうではずっと研究時間確保、研究環境整備に力を入れてやっているのです、その全体的な政策の中でこれがどういうふうに位置づくのかというところは、文科省と一緒に内閣府のほうで確認して進めていただきたいというのが意見でございます。以上です。

【上山会長】 今の点は事務局で引き取ってもらいます。研究時間の問題はずっとやってきましたので、その中でどういう位置づけかということを少し確認してほしいということですね。

【林委員】 そうです。ほかの分野も当然研究時間は必要なので、C S T Iとして国全体、全分野を見る、調整する立場からして、こういうものをどういうふうに整理されるのかというところは少し調整していただければと思います。

【上山会長】 分かりました。これは比較的大きな金額ですので特出ししていますが、全体の中で数字として挙がってきているだけで、特別ということはないと思いますが、確認します。

ほかの委員の方はよろしいですか。

【菅議員】 医学系の案件について、医学系の病院に居て臨床に携わっている先生たちの研究時間がすごく限られている状況から、研究時間が足りないという議論があったと思います。医学臨床系は、いわゆるサイエンス系の研究者とは随分と環境が違うという話があり、それをサポートするために支援が出るという理解でよろしいですか。

基礎研究にあまり研究費が支出されていなくて、どちらかというところと応用研究、すなわち薬開発研究関連に予算が配分されているのを、もっと基礎研究にも予算が行くようにしましょうという考え方なのではないでしょうか。このプログ

ラムをする理由と背景をもう少し明確にご説明頂いたほうがよいかと思いましたが。以上です。

【上山会長】 この1枚紙だと中身がよく分からないのですがけれども、今おっしゃったように、医学系における研究時間で、資金的なサポート体制が従来のフレームと違うものが必要ではないかという議論が上がっているのだと思います。ここで評価の対象にはなっていませんけれども、今何人かの方の御質問があったので、これについて事務局のほうで調べて回答できるようにしておいていただけますか。

【石川参事官】 はい、かしこまりました。評価の対象ではないものの今回先生方から御質問があったことを受けて、事務局のほうで確認して御連絡させていただきたいと思います。

【上山会長】 できたらワーキンググループのときに少しフィードバックがあればいいと思いますし、次回これがあったときに報告しても。

【石川参事官】 はい、かしこまりました。

【上山会長】 それでは、御質問を幾つか受けましたけれども、そういう対応を事務局のほうでもらいます。波多野先生どうぞ。

【波多野議員】 先ほど篠原議員からも御質問のあった次世代エッジ半導体の研究開発ですが、経産省主体で半導体戦略が進んでいる中で、文科省からの半導体の総合的な研究開発の位置づけや人材育成などに関しての研究について、もう少し伺いたいと思います。経産省とのつながりとか、その辺について、区別するべきところとか、よろしくお願いします。

【上山会長】 波多野先生はこのワーキンググループには入っておられないのですがけれども、篠原議員がおられますので、ワーキンググループのところでその

点も改めて洗い出して、フィードバックをしたいと思います。そういうことでよろしいですか。

【波多野議員】 よろしくをお願いします。

【上山会長】 それでは、今後の評価の流れですけれども、事務局から教えてください。

【石川参事官】 先ほど申し上げましたように、この後ワーキンググループを予定しております。既に日程は調整させていただいておりますが、9月26日に開催いたしたいと思います。上山先生、梶原先生、篠原先生、長谷山先生、林先生には御協力いただければと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

ワーキングの際に、対象の案件につきまして各担当省庁からヒアリングを実施して、評価原案をまとめさせていただきたいと思います。10月末ぐらいになってくるかと思いますが、その評価原案をこの評価専門調査会に上げてまた御議論いただいて、評価案として取りまとめる予定でございます。

【上山会長】 それでは、ワーキンググループの皆様方、どうぞよろしくお願ひいたします。公開議題はここで終了とさせていただきます。公開で傍聴されている方で、次の議題の関係者以外は御退席ください。どうぞよろしくお願ひいたします。

(以下非公開)

(了)